

を  
る  
の  
校  
え  
域  
学  
支  
地  
力  
chikara

# 学校支援ボランティアで 地域の連帯感を形成

北海道帯広市

## はじめに

帯広市では、文部科学省の委託を受け、保護者や地域住民が学校を支援する活動とおして、地域全体の連帯感を高めようというモデル事業（平成一九年度文部科学省「学校支援を通じた地域の連帯感形成のための特別調査研究」）に取り組みました。

この学校支援事業は、「教科等の学習サポート」「異世代交流」「教育環境の整備」「学校と地域の連携事業」の四つの柱で構成され、

①「教科等の学習サポート」は、教科等のねらいに沿って、ボランティアが、外部講師や学習補助員となつて、子どもたちの勉強をサポートする。

②「異世代交流」は、地域の幅広い年代層の方に学校に来ていただき、子

どもとかかわっていただくことで、子どもたちに礼儀や作法、規範意識、人間関係の調整力などを育む。

③「教育環境の整備」は、地域の力で、校舎周辺の環境を整備し、学校の魅力を向上させる。

④「学校と地域の連携事業」は、学校と地域住民が一緒になってさまざまなプログラムを計画し、実践する。実施に伴い、帯広市立花園小学校・

帯広市立啓北小学校の二校が実施しました。

## 啓北小学校

啓北小学校では、事業の実施に向けて設置した「啓北小学校地域ネットワーク委員会」を中心として、延べ五六名のボランティアの参加のもと、多くの創意工夫にあふれた支援事業が実施されました。

①「教科等の学習サポート」について、低学年の算数の時間に、地域住民や学生のボランティアの方に計算練習の取組への補助をお願いしました。採点するボランティアの先生の前には長い列ができ、いつもとは違う先生との対話を楽しむ子どもたちの姿がありました。学校との事前の打ち合わせのおかげで、子どもたちが戸惑うこともなく、有意義な学習の時間となりました。

また、②「異世代交流」については、茶道などを通じて、高学年の児童が、日本の伝統的な礼儀作法を学びました。講師の先生の所作の一つひとつに目を向けながら、真剣に真似をする子どもたちの姿が印象的でした。

地域の教育力が大いに発揮されたこの一年、子どもたちの笑顔がさまざまな場面で輝き、参加された皆さんともにもたくさん思い出を築き合うことができました。

（校長 久門好行）



スキー教室ボランティア（啓北小学校）

## 花園小学校

花園小学校では、ボランティア活動をより円滑に進めるために、企画と組

織を動かすコーディネーターと、連絡調整・記録を担当する選任コーディネーターを地域住民から配置し、さまざまな事業を推進していきました。

③「教育環境の整備」については、



学校施設の補修ボランティア（花園小学校）

ボランティアの方々が専門家に指導していただきながら、校地内の遊具のペンキ塗装作業で汗を流しました。真夏の太陽のもと、剥がれかけていた塗装が、次々と新しく塗り替えられ、十勝晴れの青空のように美しく輝く遊具に生まれ変わりました。

また、④「学校と地域の連携事業」については、ピアノストとして国際的に活躍している卒業生を迎えて、地域に開かれた音楽会を催したり、大がかりな地域防災訓練を行ったりしました。こうした事業を通して、これまで以上に学校に地域の方々が足を運んでくれるようになりました。

今後も、学校支援をとおして子どもたちと地域住民の結びつきがいつそう深まり、より教育目標の具現化につながっていくことを期待しています。

（校長 太田喜久）

## 成果と課題

両校の子どもたちや教職員、地域住民を対象として行った意識調査の結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

### ●成果

○参加してくださった皆さんが、笑顔で楽しみ、満足感や達成感を味わうことができた

○学校と地域の距離がいつそう近づいた

○地域の連帯感や一体感を感じることができた

○学校教育の充実が図られたなど。

### ●課題

○人材や活動の広がりを目指すこと

○コーディネーターやボランティアの育成を重視すること

○開かれた学校づくりのさらなる推進など、学校の意識改革を図っていくこと

○取組を支援する行政の責任において、既存の事業や制度を含めた総合的な整理を行っていくことなど。

## 最後に

この一年間の学校と地域との協働により、学校に心地よい、新しい風が通り抜け始めました。明らかになってきた成果と課題を考慮しながら、学校支援ボランティアの取組がよりいつそう充実したものとなるよう仕組みを整えていくとともに、地域社会みんなで子どもたちを育てていく活動のすばらしさや意義を、市内の各学校へも広く発信していきたいと考えています。